

寺院資料調査から地域文化振興を考える

——深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて——（特別講演フォーラム開催の趣旨説明）

弘前大学人文社会科学部 准教授 原 克昭

このたび、深浦の古刹である春光山円覚寺所蔵の資料群全二二三五点が、はれて「円覚寺真言・修験聖教類及び文書」として青森県重宝指定を受けることとなりました（『青森県報』第二百九十四号、令和三年四月九日付）。弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターを基盤とする「深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト」（以下、本プロジェクト）は、資料調査という側面からサポートさせて戴いてきたわけですが、第四回目となる本年度のフォーラムでは、県重宝指定を記念いたしました、「寺院資料調査から地域文化振興を考える——深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて——」と題して、本プロジェクトにゆかりのある三名の講師の先生方をお招きし、特別講演ならびに意見交換を行いましたと思います。講演に先立ちまして、まずは深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトの経緯と併せて本フォーラムの開催趣旨を説明させていただきます。

新たな観光資源の開拓が重要課題である青森県内には、貴重な宗教関係の古典籍・古文書・文献資料が数多く伝えられています。そのような文献資料群を、新たな文化資源として発掘・再発見し、さらに高付加価値化することが求められています。かねてより弘前大学では、地域課題への対応や地域社会の形成と発展に寄与するべく、二〇一六年に深浦町と連携協定を締結し、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス開講をは

じめ、様々な領域分野で地域のニーズに応じた社会連携を実践してきております。

うち、本プロジェクトでは、津軽青森地域における歴史文化振興事業の一環として、二〇一七年より深浦町の古刹・春光山円覚寺に所蔵される古典籍資料群の調査研究に着手し、さらに公益財団法人青森学術文化振興財団の助成を得て、新たな津軽青森地域の歴史文化資源、ひいては青森県を代表する文化観光資源へと展開させることをめざしてまいりました。

その目的は、円覚寺資料調査への市民や学生の協働調査参加という「青森モデル」の推進、フォーラム・報告書・市民講座による研究成果の地域還元と情報共有など、青森県の歴史文化振興に文献資料調査という面から貢献することにあります。あわせて、県外に向けては国内でも貴重な宗教史関係資料の存在を発信することに努めています。はたして、「青森モデル」による地域市民の調査参加や全国規模でのフォーラム開催は大きな反響を呼び、「歴史文化都市」としての「青森」に対するまなざしと関心度は徐々に高まりと拡がりを見せています。そのような過程にあつて、本プロジェクトによる調査研究も円覚寺資料を青森県の文化財として県重宝指定申請するお手伝いをさせて戴いてきたところです。

なお、今般の新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢を受けて各

種事業の延期や中止が余儀なくされる中、本プロジェクトにおいては、地道な調査活動の継続およびオンライン型フォーラムの開催にまで漕ぎ着けることができました。それも、ひとえに本プロジェクトに対する地域の御理解とニーズに支えられたからにほかならず、その需要に応えるだけの事業的意義を再認識できたことは特筆すべきところであります。そこで、これまで青森学術文化振興財団の助成を受けてきた本プロジェクトの集大成として、円覚寺資料の県重宝指定という高付加価値の実現化を記念し、津軽青森地域の歴史文化資源に対する全国規模での高い関心とニーズに応えるために、第四回目のフォーラム「寺院資料調査から地域文化振興を考える——深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて——」を開催する次第です。

本プロジェクトは、津軽地域および青森県内に現存する歴史文化資源を発掘・活用することによって、青森県の文化や歴史に関する関心や理解を深め郷土に対する誇りを涵養すること、および県外に向けて「歴史文化都市」としての「青森」を再認識してもらうことで、多くの方に津軽青森に来訪してもらう契機となるような「新たな文化観光資源」の開拓をめざしています。本フォーラムはその一環として、例年開催しているものであり、とりわけ本年度は円覚寺聖教の県重宝指定を記念して、今後のさらなる展開、すなわち青森県内における文化財としての文献資料の再価値化、および全国規模からみた体系的な宗教史資料群の再定位をめざすべく、寺院資料調査の意義と可能性について、講師の先生方による特別講演ならびに意見交換を交えつつ、みなさまと一緒に考える機会とするものであります。昨年度に引き続き、あいにくオンライン開催とはなりましたが、全国の方々にご視聴いただき、諸処よりご意見たまわりますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2021年度 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会
弘前大学深浦エコサテライトキャンパス 令和3年度特別公開講座

寺院資料調査から 地域文化振興を考える

— 深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて —

特別講師

名古屋大学

八戸学院大学短期大学部

大正大学

阿部 泰郎 先生
三村 三千代 先生
渡辺 麻里子 先生

開演時間

2021年9月26日 日

13時～

【講師紹介】

【特別講演1】 渡辺 麻里子 先生

(大正大学文学部教授)

前弘前大学人文社会科学部教授

早稲田大学院博士課程修了。博士(文学)。専門は、日本中世文学(仏教・説話)、文献資料学。主な業績に、「中世文学研究における寺院資料調査の可能性」(『中世文学』56, 2011年)、「天台仏教と古典文学」(『天台学探尋』法蔵館, 2014年)など。弘前大学在職中に本プロジェクトを発起。

【特別講演2】 三村 三千代 先生

(八戸学院大学短期大学部客員教授)

東京大学文学部卒業、同大学院修士課程修了。

上北郡おいらせ町在住。専門は、日本古典文学。八戸学院大学短期大学部にて客員教授を勤めるかたわら、各地で古典文学の講師を務める。著書に、『ミムラン先生のチャレンジ百人一首』(東奥日報社, 2018年)がある。

【特別講演3】 阿部 泰郎 先生

(名古屋大学名誉教授・龍谷大学文学部教授)

専門は、日本中世文学を中心に、説話文学・

仏教文学・芸能史・宗教テクスト学。主な著書に、『中世日本の宗教テクスト体系』(名古屋大学出版会, 2013年)、『中世日本の世界像』(同, 2018年)、『中世日本の王権神話』(同, 2020年)など。本プロジェクト第2回フォーラム特別講師。